

学会だより

◇会員の荣誉

松岡信会員が平成 28 年度日本農学賞・読売農学賞を受賞

本会会員松岡信氏は、平成 28 年 1 月 22 日、「植物成長ホルモン・ジベレリンの合成・受容機構の解明およびそれを用いた分子育種」の業績により、日本農学会から平成 28 年度「日本農学会賞」を授与されることが決定しました。日本農学会賞は、農学上顕著な業績を挙げたものに対して日本農学会から贈られるものです。授与式は平成 28 年 4 月 5 日（火）午前 10 時より東京大学山上市会館において行われます。

◇一般社団法人日本育種学会代議員選挙結果のご報告

代議員選挙によって、平成 28・29 年度の選出代議員が決定いたしました。

地区（代議員定数）：代議員氏名（敬称略）

北海道（4）：貴島祐治・久保友彦・佐藤裕・三浦秀穂

東北（5）：石川隆二・岡崎桂一・北柴大泰・高畑義人・西尾剛

関東 1（7）：大澤良・久保山勉・田中淳一・田中剛・半田裕一・松本隆・山本敏央

関東 2（3）：木庭卓人・佐々英徳・中村郁郎

関東 3（5）：伊藤純一・金勝一樹・松原健一郎・平野博之・吉田薫

中部（5）：掛田克行・小林麻子・富田因則・土井一行・村井耕二

近畿（4）：石井尊生・齊藤大樹・清水顕史・築山拓司

中国・四国（3）：草場信・辻本壽・前川雅彦

九州・沖縄（4）：穴井豊昭・甲斐浩臣・田浦悟・安井秀

◇一般社団法人日本育種学会会長・副会長意向投票結果のご報告

代議員（平成 26・27 年度）ならびに新しく選出された代議員（平成 28・29 年度）による会長選出のための意向投票と副会長選出のための意向投票の結果をお知らせいたします。会長意向投票の最多得票者は堤伸浩氏（東京大学）、副会長意向投票の最多得票者は奥本裕氏（京都大学）でした。両氏は共に、一般社団法人日本育種学会運営内規で定められている有効投票数の 1/3 以上の票を獲得されており、既にご本人による承諾も頂いておりますので、両氏が平成 28・29 年度の会長暫定候補者および次期副会長暫定候補者に決定いたしました。一般社団法人日本育種学会の定時代議員会（社員総会）の決議により選任されます。

◇第 128 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2015 年日本育種学会秋季大会（第 128 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 11 課題に決定されました。

講演番号 P080：Oryza longistaminata 地下茎の重力屈性を制御する因子の探索 ☆上原奏子・ドミニカス ジョバンノ・近藤宏野・芦荊基行（1. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター）

講演番号 206：GWAS による花粉数を制御する遺伝子の同定と解析 ☆角井宏行¹・土松隆志^{1,2}・山崎美紗子¹・Marona Cindy³・Meng Dazhe^{2,4}・金岡雅浩⁵・Stadler Thomas⁶・Lenhard Mihael³・Nordborg Magnus^{2,4}・清水健太郎¹（1. University of Zurich, 2. Gregor Mendel Inst., 3. Univ. Potsdam, 4. Univ. Southern California, 5. 名古屋大学, 6. ETH Zurich）

講演番号 309：heracles は、巨大胚変異体（ge）を半優性に抑圧する ☆水野泉・伊藤純一・松原健一郎（東大院農学生命科学）

講演番号 103：ゲノミックセレクションを用いた多収性普通ソバ系統の育成 ☆原尚資¹・矢部志央理²・上野まりこ³・榎宏征⁴・木村達郎⁴・西村哲⁴・安井康夫³・岩田洋佳⁵・大澤良¹（1. 筑波大・院生命環境科学, 2. 農研機構中央農研, 3. 京都大・院農, 4. トヨタ自動車（株）FP 部バイオ・ラボ, 5. 東京大・院農学生命科学）

講演番号 P001：遺伝子ベース作物モデルで未知環境における後代集団の出穂を予測する ☆青池亨¹・渡辺真哉¹・小野木章雄¹・出田収²・吉岡拓磨³・江花薫子⁴・山崎将紀³・中川博視⁵・岩田洋佳¹（1. 東京大・院農学生命科学, 2. 農研機構・近中四農研セ, 3. 神戸大院附属食資源センター, 4. 生物研, 5. 農研機構・中央農研）

講演番号 302：コムギ Vrs1 相同遺伝子は稔実小花数を決定する ☆佐久間俊^{1,2}・小川泰一²・田切明美²・金森裕之²・呉健忠²・Pourkheirandish Mohammad²・小松田隆夫²（1. 横浜市立大学木原生物学研究所, 2. 農業生物資源研究所）

講演番号 508：オオムギの形質転換に必要なゲノム領域の同定 ☆久野裕・元井由加・佐藤和広（岡山大植物研）

講演番号 117：ダイズ非メンデル遺伝ステイグリーン遺伝子の単離 ☆上妻馨梨^{1,2}・佐藤豊³・奥崎文子^{3,4}・増田優¹・福岡浩之⁵・金澤章⁶・田部井豊³・草場信^{1,2}（1. 広島大院理, 2. CREST, 3. 農業生物資源研, 4. 玉川大・農, 5. 農研機構野菜茶研, 6. 北大・院・農）

講演番号 611：東北地方北部のイネ栽培品種に重要な出穂期関連遺伝子の同定 ☆野々上慈徳^{1,2}・高木宏樹¹・八重樫弘樹¹・菊池秀子¹・夏目俊¹・宇津志博恵¹・小笠原由美子¹・吉津祐貴²・横井修司²・寺内良平¹・阿

部陽¹ (1. 岩手生工研, 2. 岩手大・院連合農学)

講演番号 620: 栽培イネの有用変異発掘を促進する12種類の染色体断片置換系統群の作出 ☆永田和史¹・野々上慈徳^{1,2,3}・溝淵律子¹・小野望³・柴谷多恵子¹・江花薫子¹・松原一樹^{1,4}・小木曾映里¹・七夕高也^{1,5}・杉本和彦¹・田口文緒¹・米丸淳一¹・宇賀優作¹・福田篤徳¹・上田忠正¹・山本伸一¹・山内歌子¹・高井俊之^{1,4}・一家崇志^{1,6}・近藤勝彦^{1,7}・星野友紀^{1,8}・山本英司^{1,9}・安達俊輔^{1,10}・孫健¹・久家徳之¹・木富悠花¹・崔善熹¹・飯島健¹・長崎英樹^{1,11}・正村純彦¹・水林達実¹・北澤則之¹・堀清純¹・安藤露¹・山本敏央¹・福岡修一¹・矢野昌裕^{1,4} (1. 生物研, 2. 現・岩手生工研, 3. STAFF 研, 4. 現・農研機構作物研, 5. 現・理研, 6. 現・静岡大, 7. 現・国際農研, 8. 現・山形大, 9. 現・農研機構野茶研, 10. 現・東京農工大, 11. 現・遺伝研)

講演番号 P048: 催涙成分合成酵素遺伝子を標的としたタマネギのゲノム編集 ☆真壁壮¹・井川智子¹・今井真介²・嶋井享宏²・中村郁郎¹ (1. 千葉大・院・園芸, 2. ハウス食品グループ本社 (株))

◇地域談話会だより

〈北海道地区〉

2015年12月5日(土)に北海道大学農学部において、日本育種学会・日本作物学会北海道談話会の平成27年度の年次講演会、総会およびシンポジウムが開催された。一般講演において、本談話会の新たな試みとして若手優秀発表賞が設けられ、第1回の受賞者には講演番号: 105 足利奈奈(道総研北見農試)と講演番号: 210 竹島亮馬(北大大学院農学院)の2名が選定され、総会において表彰された。一般公演およびシンポジウムの詳細は以下の通りである。

◎平成27年度一般講演 (57 演題)

101 栽植密度を用いた大気CO₂上昇下で高い生産性を示すコムギ品種の選抜方法—北海道の春播性コムギの疎植適応における品種間差異(2ヶ年の結果)—。○村田容子¹・竹林佳南¹・義平大樹¹・下野裕之² (1. 酪農学園大, 2. 岩手大農学研究科)

102 栽植密度を用いた大気CO₂上昇下で高い生産性を示すコムギ品種の選抜方法—過去50年間に北海道で育成された秋播性コムギ品種の疎植適応における品種間差異—。○竹林佳南¹・村田容子¹・義平大樹¹・下野裕之² (1. 酪農学園大, 2. 岩手大農学研究科)

103 肥効調節型窒素肥料の雪上起生期前施肥が秋播コムギ「きたほなみ」の生育・収量に及ぼす影響。○渡邊貴哉¹・栗原一博²・義平大樹¹ (1. 酪農学園大, 2. JNC(株))

104 網走市における秋播き小麦品種「きたほなみ」への少量多回分肥法による増収効果について。○丸橋隆弘・笠島真也・吉田穂積・伊藤博武(東京農大院生物産業学

研究科)

105 日長反応性遺伝子 *Ppd-D1* が春まき小麦の安定多収性に及ぼす影響。○足利奈奈¹・山下陽子²・来嶋正朋¹・藤田正平²・相馬潤²・小澤徹²・松中仁³・加藤鎌司⁴・神野裕信¹ (1. 道総研北見農試, 2. 道総研中央農試, 3. 九州沖縄農研, 4. 岡山大)

106 「Madsen」のコムギ縮萎縮病抵抗性QTLを導入した秋まき小麦「きたほなみ」の準同質遺伝子系統の農業特性。○粕谷雅志¹・鈴木孝子²・神野裕信¹・大西志全¹・其田達也¹・吉村康弘² (1. 道総研北見農試, 2. 道総研中央農試)

107 秋播性コムギ品種「きたほなみ」の多収要因に関する研究。○山田翔太¹・笠島真也²・伊藤博武²・神野裕信³・大西志全³ (1. 東京農大院生物産業学研究科, 2. 東京農大生物産業学部, 3. 道総研北見農試)

108 秋まき小麦の穂発芽性「極難」系統の改良。○其田達也¹・佐藤三佳子²・西村努³・菅原彰⁴・大西志全¹・粕谷雅志¹・神野裕信¹ (1. 道総研北見農試, 2. 道総研中央農試, 3. 道総研上川農試, 4. 道総研十勝農試)

109 秋まき穂発芽性極難コムギにおける強種子休眠性の解析。○中根わかかな¹・西村努^{2,3}・神野裕信⁴・森正彦¹・三浦秀穂¹ (1. 帯畜大, 2. 道総研上川農試, 3. 岩手連大院農, 4. 道総研北見農試)

110 スペルトコムギとパンコムギにおけるアーパスキュラー菌根形成率の遺伝的変異。○岡野なつみ・石田幹大・三浦秀穂・橋本靖・大西一光(帯畜大)

111 コムギ4A染色体上における芒抑制遺伝子座(*Hd*座)近傍に検出された種子休眠性QTL。○吉川光貴・曹良子・三浦秀穂・大西一光(帯畜大)

112 マラウイのポストハーベスト・ロス低減に向けたトウモロコシ“Local”品種利用の可能性。○半田望¹・山澤知香¹・河原田侑希¹・Chandiona Munthali²・相内大吾¹・谷昌幸¹・小疇浩¹・大西一光¹・森正彦¹ (1. 帯畜大, 2. Chitedze Research Station)

113 2倍体バレイショC×Eマップ集団における早期肥大性と開花期までの積算受光量および光利用効率との関係。○西浦珠央¹・成影沙紀²・林百々²・市川伸次³・岩間和人¹ (1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター)

114 一塩基多型(SNP)を利用した日本産バレイショ品種の識別。○佐々木晴充・實友玲奈・保坂和良(帯畜大)

201 海外で育成されたテンサイ維持系統における *ry1* アレルの構造。○内山大輔・大神貴史・久保友彦(北大院農)

202 大雪山におけるエゾコザクラの葉緑体ゲノムの遺伝変異。○澤田円・我妻尚広・岡本吉弘(酪農学園大)

203 イネ穂ばらみ期の高温ストレスに対する品種間の耐性評価。○内山亮・石黒聖也・陳孫祿・貴島祐治(北大院農)

204 イネゲノムに内在するウイルス断片の自然選択圧

に関する解析. ○山田加奈恵・斎藤希・陳孫祿・貴島祐治 (北大農)

205 イネ小穂の護穎, 副護穎に関する変異体の遺伝解析. ○小矢崎慧・奈良有司・小谷まり・貴島祐治・高牟禮逸朗 (北大院農)

206 慣行移植栽培と地下水位制御システム (FOEAS) を用いた乾田直播栽培における水稲品種「ななつぼし」の生育及び収量の比較. ○大野星絵¹・竹澤広基¹・市川伸次²・角田貴敬²・内野紀彦²・岡田佳菜子³・岩間和人¹ (1. 北大農, 2. 北大北方生物圏フィールド科学センター, 3. 拓殖大北海道短大)

207 根系構造に着目した北海道適応型多収イネの比較. ○道満剛平・西村努・平山裕治・佐藤毅 (道総研上川農試)

208 黄ダイズおよびその種皮着色突然変異体における種皮プロアントシアニジンの定量比較. ○川田聡¹・前多隼人¹・山口直矢²・千田峰生¹ (1. 弘前大農学生命, 2. 道総研十勝農試)

209 ダイズ低温裂開抵抗性に関する QTL についての研究—準同質遺伝子系統を用いた種皮プロアントシアニン蓄積の比較—. ○山下一騎¹・山口直矢²・川崎通夫¹・千田峰生¹ (1. 弘前大農学生命, 2. 道総研十勝農試)

210 ダイズの開花期に関わる J 連鎖群 QTL のファインマッピングと候補遺伝子の解析. ○竹島亮馬¹・朱江慧¹・山口直矢²・佐山貴司³・石本政男³・渡邊啓史⁴・孔凡江⁵・山田哲也¹・阿部純¹ (1. 北大院農, 2. 道総研十勝農試, 3. 生物研, 4. 佐賀大農, 5. 中国科学院東北地理学及び農業生態学研究所)

211 ダイズ品種「トヨハルカ」の耐倒伏性に関する形質の同定—押倒し抵抗とその関連形質におけるトヨハルカとトヨムスメおよび耐倒伏性 QTL の準同質遺伝子系統間の比較—. ○北畠拓也¹・義平大樹¹・山口直矢² (1. 酪農学園大, 2. 道総研十勝農試)

212 イオンビーム照射によって得られたダイズ突然変異系統における葉緑素欠乏と開花期変異. ○御厨駿¹・中嶋健太¹・長谷純宏²・山田哲也¹・阿部純¹・金澤章¹ (1. 北大院農, 2. 日本原子力研究開発機構)

213 アズキ品種「しゅまり」が有する開花の長日不感受性に関する遺伝子座の特定. ○山本博規¹・堀内優貴²・小倉玲奈³・坂井寛章⁴・佐藤仁²・加藤清明¹ (1. 帯畜大, 2. 道総研十勝農試, 3. 道総研中央農試, 4. 生物研)

301 バレイショの有機栽培と慣行栽培における葉の厚さの差異が乾物生産に及ぼす影響. ○竹村紘¹・鈴木若菜²・市川伸次³・岩間和人¹ (1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大北方生物圏フィールド科学センター)

302 北海道の気象要因に基づくバレイショ潜在収量のモデル解析. 出口哲久¹・○岩間和人²・Anton Haverkort³ (1. 北海道教育大札幌校, 2. 北大院農, 3. Wageningen UR)

303 ジベレリン処理したバレイショ・ミニチューパー

の圃場での生育と収量. ○不破秀明¹・天野克幸¹・岩間和人² (1. 種苗管理センター北海道中央農場後志分場, 2. 北大院農)

304 小豆遺伝資源「黒小豆 (岡山)」由来の土壌病害抵抗性. ○小倉玲奈¹・鴻坂扶美子²・島田尚典² (1. 道総研中央農試, 2. 道総研十勝農試)

305 北海道オホーツク地方におけるアズキ早生品種の成長解析. ○神田奈緒¹・笠島真也¹・伊藤博武¹・堀内優貴²・佐藤仁² (1. 東京農大生物産業学部, 2. 道総研十勝農試)

306 「PKB 硫カル」(ホウ素およびモリブデン入り肥料)の施用がダイズ品種「ユキホマレ」の生育および収量に及ぼす影響. ○湯本健太¹・義平大樹¹・秋友勝²・土井康一³ (1. 酪農学園大, 2. 東罐マテリアル・テクノロジー(株), 3. 片倉コープアグリ(株))

307 高密度条件下における長花梗 QTL を有したダイズ品種「トヨハルカ」の準同質遺伝子系統の収量および収量関連形質. ○古熊奎輔¹・義平大樹¹・山口直矢²・小林聡²・佐山貴司³・石本政男³ (1. 酪農学園大, 2. 道総研十勝農試, 3. 生物研)

308 ダイズの栽植密度に対する分枝可塑性に関する簡易評価—摘心による分枝伸長の品種間差異を利用した方法—. ○鈴木暖佳¹・義平大樹¹・白岩立彦² (1. 酪農学園大, 2. 京大院農)

309 広畦による疎植条件が分枝可塑性の異なるダイズ品種の収量に及ぼす影響. ○北吉大喜¹・尾崎徳宏¹・義平大樹¹・白岩立彦² (1. 酪農学園大, 2. 京大院農)

310 分枝可塑性の異なるダイズ品種における欠株が隣接株の収量および関連形質に及ぼす影響. ○尾崎徳宏¹・北吉大喜¹・義平大樹¹・白岩立彦² (1. 酪農学園大, 2. 京大院農)

311 ダイズの栽植密度に対する分枝可塑性に及ぼす茎伸育性および早晩性遺伝子の効果. ○義平大樹¹・鈴木暖佳¹・白岩立彦²・石本政男³ (1. 酪農学園大, 2. 京大院農, 3. 生物研)

312 納豆加工適性に優れる大豆系統を少量の煮豆から推定可能な選抜システムの確立. ○岩橋雅夫¹・池田千亜紀¹・野口友嗣²・長谷川裕正²・中川力夫²・岡本和之¹ (1. 茨城県農業総合センター生物工学研究所, 2. 茨城県工業技術センター)

313 SCN 抵抗性遺伝子 *rhg1* に関する分離のゆがみ. ○鈴木千賀¹・山下陽子¹・鈴木孝子 (道総研中央農試)

314 豆乳を用いた簡易ショ糖含量評価と大豆育種への利用. ○小林聡¹・三好智明¹・川原美香²・四宮紀之²・小谷野茂和³・中道浩司⁴ (1. 道総研十勝農試, 2. 公益財団法人とかち財団, 3. 北海道原子力環境センター, 4. 道総研中央農試)

315 海外ダイズ品種の開花期耐冷性スクリーニング. ○山口直矢¹・大西志全²・三好智明¹ (1. 道総研十勝農試, 2. 道総研北見農試)

401 子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培が収量に及ぼす影響—狭畦千鳥栽培を含めた増収効果の栽植密度反応—。○一関悠太¹・宋粮¹・義平大樹¹・佐藤智宏² (1. 酪農学園大, 2. パイオニアハイブレッッドジャパン)

402 子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培が収量に及ぼす影響—小面積試験区における増収効果の栽植密度反応に関する推定—。○宋粮¹・一関悠太¹・義平大樹¹・佐藤智宏² (1. 酪農学園大, 2. パイオニアハイブレッッドジャパン)

403 子実用トウモロコシに対する千鳥播および狭畦栽培が収量に及ぼす影響—長沼町の実規模試験における増収効果とその栽植密度反応—。○土屋恭平¹・宋粮¹・義平大樹¹・小川健太¹・佐藤智宏²・柳原孝二³・照井英樹⁴ (1. 酪農学園大, 2. パイオニアハイブレッッドジャパン, 3. 有限会社柳原農場, 4. IDEC)

404 飼料用トウモロコシにおける雄穂発達期低温感受性の遺伝様式に関する研究 (予報)。○林拓¹・佐藤尚²・岩間和人³ (1. 道総研根釧農試, 2. 北農研, 3. 北大院農)

405 北海道における高温登熟不良が発生する可能性について。○保田浩・梶亮太・松葉修一・池ヶ谷智仁 (北農研)

406 北海道イネの由来。○藤野賢治・小原真理 (北農研)

407 イネの開花期, 開花期間およびその密度反応の遺伝解析。○伊藤勇樹 (酪農学園大)

408 北海道における畑作物の生産性向上 1. 十勝地方の小麦収量とその変動要因。○柳沢朗 (道総研十勝農試)

409 北見農試の作況調査からみた 2015 年の秋まき小麦多収要因。○神野裕信・大西志全・粕谷雅志・其田達也 (道総研北見農試)

410 種皮色候補遺伝子を白粒小麦に導入した遺伝子組換え赤粒系統の作出。○栗原志保¹・安倍史高² (1. 北農研, 2. 作物研)

411 コムギ 4B 染色体上の種子形と種子サイズに関わる QTL のマッピング。○服部真弥・徳井真由美・曹良子・大西一光・三浦秀穂 (帯畜大)

412 登熟環境に対応した秋まき穂発芽性極難コムギの種子休眠性評価。○西村努^{1,2}・其田達也¹・佐藤三佳子^{1,3}・神野裕信¹ (1. 道総研北見農試, 2. 現:道総研上川農試, 3. 現:道総研中央農試)

413 貯蔵期間と老化処理が主要農作物種子の発芽率へ及ぼす影響。○浅山聡¹・鈴木和織²・荒木和哉² (1. 道総研北見農試, 2. 道総研中央農試)

414 テンサイの分離世代における当年抽苔の変異。○黒田洋輔・高橋宙之・岡崎和之・松平洋明・田口和憲 (北農研)

415 テンサイ育種温室土壌の低濃度エタノール還元土壌消毒の効果。○高橋宙之・上田重文・田口和憲・岡崎和之・黒田洋輔・松平洋明 (北農研)

◎平成 27 年度シンポジウム『北海道におけるダイズの品種, 栽培, 利用の現状と将来』

I. 「北海道産大豆の流通実態」長谷川幸男 (ホクレン)
II. 「道産大豆の加工・利用面における将来への提言」郷和平 ((株) 菊田食品)

III. 品種開発

(1) 「道総研における大豆育種」三好智明 (道総研十勝農試)

(2) 「難裂莢遺伝子の単離と機能解明」藤野介延 (北大院農)

(3) 「ダイズシストセンチュウ対策としての抵抗性利用の現状と今後」眞岡哲夫 (北農研)

IV. 「省力化に向けた狭畦密植栽培」藤田正平 (道総研中央農試)

V. 「道総研における大豆の品質研究とその成果」谷藤健 (道総研食品加工研究センター)

VI. 総合討論 司会: 島田尚典 (道総研十勝農試)

〈中国地区〉

中国地域育種談話会報告

2015 年 12 月 19 日 (土)・20 日 (日) に岡山大学農学部において第 7 回中国地域育種談話会が開催された。参加者は 69 名, 特別講演 2 題, 一般口頭発表 8 題, ポスター発表 27 題であった。また, 優秀発表賞が 5 名に授与された。優秀発表賞受賞は次の通り: 山谷浩史 (O-1), 大林祝 (P-02), 白井一正 (O-3), 坂本和貴 (P-13), 増田春香 (P-22)。

特別講演 I

「水稲品種「朝日」における脱粒性の改良」

大久保和男 (岡山県農林水産総合センター農業研究所)

特別講演 II

「異形花型自家不和合性の制御因子の探索」

牛島幸一郎 (岡山大学大学院環境生命科学研究科)

一般口頭発表

O-1: イネ stay-green 突然変異の原因遺伝子の単離と機能解析

○山谷浩史¹・中野道治¹・上妻馨梨^{1,5}・高見常明²・加藤祐介²・阿部知子³・林依子³・西村実⁴・坂本亘²・草場信^{1,5} (1. 広島大理, 2. 岡山大農, 3. 理研仁科センター, 4. 新潟大農, 5. CREST)

O-2: 形態形成に関わる新規の短い遺伝子にコードされるペプチドの機能解析

○金有王¹・樋口美栄子²・大林祝¹・岡本昌憲³・清水みなみ²・吉積毅²・中南健太郎²・仁志蘭子²・篠崎一雄²・関原明²・松井南²・花田耕介¹ (1. 九工大, 2. 理化学研究所, 3. 鳥取大乾地研)

O-3: 遺伝子重複がもたらすシロイヌナズナ生態株間の二次代謝産物量の多様性

○白井一正¹・中林亮²・松田史生³・岡本昌憲⁴・田中真帆²・藤本明洋⁵・清水みなみ²・篠崎一雄²・関原明²・斎藤和季²・花田耕介^{1,2} (1. 九工大, 2. 理研 CSRS, 3. 阪大大学院情報科学研究科, 4. 鳥取大乾地研, 5. 理研 IMS)

O-4: カンボジア東部におけるウリ科遺伝資源探索の報告

○山下洋士¹・Duong Thanh Thuy¹・田中克典²・L. Seang³・加藤鎌司¹ (1. 岡山大院環境生命, 2. 弘前大人文, 3. カンボジア農業調査開発研)

O-5: 中国西海省チベット高原におけるムギ類遺伝資源の収集

佐藤和広 (岡山大植物研)

O-6: Insertion site polymorphisms of the *Stowaway* miniature Inverted-repeat transposable elements (MITEs) family infer different strata of evolutionary relationships in the *Triticum - Aegilops* complex

○ Benjamin Ewa Ubi^{1,2}, Yasir Serag Alnor Mohammed^{1,3}, Yuki Monden⁴, Makoto Tahara⁴, Hisashi Tsujimoto^{1,*} (1. ALRC, Tottori Univ., 2. Ebonyi State U., Nigeria, 3. Agr. Res. Corp. Sudan, 4. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U.)

O-7: 早生デュラムコムギの育成～F5 および F4 選抜系統における栽培性と品質

○馬場遼太¹・丹野研一¹・河原太八²・荒木英樹¹・高橋肇¹ (1. 山口大学農学部, 2. 京都大学農学研究科)

O-8: 普通系小麦からデュラム小麦に導入した穂発芽抵抗性に関する要因の種子休眠性への効果

○高田兼則¹・船附稚子¹・谷中美貴子¹・大楠秀樹² (1. 農研機構・近農研, 2. 日本製粉)

ポスター発表

P-01: Arabidopsis 系統で明らかとなった遺伝子重複の数百万年後に機能多様性が増強される現象

○ K. Hanada^{1,2,3}, A. Tezuka¹, Y. Nozawa⁴, Y. Suzuki⁵, S. Sugano⁵, A.J. Nagano⁶, M. Ito⁵, S.-I. Morinaga⁷ (1. Kyusyu Inst. Tech., 2. RIKEN, 3. CREST, 4. NIG, 5. Univ. Tokyo, 6. Kyoto Univ., 7. Nihon Univ.)

P-02: ブラシノステロイドのシグナル伝達を阻害する短いペプチドの機能解析

○大林祝¹・吉積毅²・原口武士³・岡本昌憲⁴・樋口美栄子²・清水みなみ²・野元美佳⁵・多田安臣⁵・軸丸裕介⁶・神谷勇治²・篠崎一雄²・花田耕介^{1,2} (1. 九工大・若手フロンティア, 2. 理研・CSRS, 3. 千葉大・院・理, 4. 鳥取大・乾燥地研, 5. 名古屋大・遺伝子実験施設, 6. アジレントテクノロジー)

P-03: 多数の系統樹作成による分子進化的解析手法の開発

○江副晃洋¹・花田耕介¹ (1. 九州工業大)

P-04: 植物の新規ホルモン様ペプチドのシグナル機構の解明にむけて

○鳥居怜平¹・金有王¹・樋口美栄子²・清水みなみ²・深尾陽一朗³・花田耕介¹ (1. 九州工業大, 2. 理研・CSRS, 3. 立命館大学生命科学部生命情報工学科)

P-05: フィトクロムはシロイヌナズナにおいて光応答を媒介するために選択的スプライシングを制御する

○能勢貴行¹・白井一正¹・F. Christian²・松下智直³・花田耕介¹ (1. 九州工業大, 2. Lausanne U., 3. 九州大)

P-06: 四倍性コムギ遺伝資源における子実の硬軟質性の変異に関する研究

○岡崎大¹・丹野研一¹・鎌田英一郎²・荒木英樹¹・高橋肇¹・高田兼則³・山根京子⁴・河原太八⁵ (1. 山口大学農学部, 2. 鳥取大学連合農学研究科, 3. 近畿中国四国農業研究センター, 4. 岐阜大学応用生物科学部, 5. 京都大学農学研究科)

P-07: 農耕起源の解明～ハサンケイフ・ホック遺跡で農耕は始まっていたのか

○山崎樹里¹・丹野研一¹・三宅裕²・前田修² (1. 山口大学農学部, 2. 筑波大学人文社会学研究科)

P-08: 青色光による葉老化制御機構解析

○下野起将¹・小塚俊明¹・井上良平¹・草場信^{1,2} (1. 広島大理, 2. CREST)

P-09: 暗黒誘導性老化における ACC 合成酵素アイソフォームの機能解析

○永尾千晶¹・上田浩晶¹・井上良平¹・草場信^{1,2} (1. 広島大理, 2. CREST)

P-10: アジアのパンコムギにおけるデンプン合成酵素遺伝子の遺伝的多様性とタンパク質発現量解析

○田中悠¹・田中裕之² (1. 鳥取大院農, 2. 鳥取大農)

P-11: 小麦粉生地を強くする *Thinopyrum elongatum* 由来高分子量グルテニンサブユニット遺伝子をもつ 1EL 染色体部分領域のパンコムギへの導入

○赤松紗也加・田中裕之 (鳥取大農)

P-12: ABA 受容体を利用したコムギの乾燥ストレス耐性の向上

○妻鹿良亮¹・安倍史高²・花田耕介³・岡本昌憲^{1,4} (1. 鳥取大学・乾燥地研, 2. 農研機構・作物研, 3. 九州工業大学・若手研究者フロンティア研究アカデミー, 4. 科学技術振興機構さきがけ)

P-13: オオムギ網斑病抵抗性遺伝子のマッピング

○坂本和貴・久野裕・佐藤和広 (岡山大植物研)

P-14: オオムギ α -アミラーゼの品種変異と関連解析

○松本紗都子¹・久野裕¹・木原誠²・周天魁²・佐藤和広¹ (1. 岡山大植物研, 2. サッポロビールバイオ研究開発部)

P-15: NGS を利用したレトロトランスポゾン挿入多型に基づくシイタケ (*Lentinula edodes*) 品種判定マーカーの開発

○湯浅まり恵・門田有希・田原誠 (岡山大院・環境生命科学)

P-16: サツマイモネコブセンチュウ抵抗性遺伝子の同定に向けた連鎖地図の構築

○岸本和樹¹・笹井瑠美²・門田有希¹・岡田吉弘³・田淵宏朗³・小林晃³・謝花治⁴・翁長彰子⁴・磯部祥子⁵・平川英樹⁵・白澤健太⁵・田原誠¹ (1. 岡山大・院環境生命科学, 2. 岡山大農, 3. 九沖農研, 4. 沖縄農研, 5. かずさ DNA 研究所)

P-17: サツマイモネコブセンチュウ感染・非感染土壌における 16S メタゲノム解析

○中島陽佳¹・門田有希¹・蔵之内利和²・田原誠¹ (1. 岡山大院・環境生命科学, 2. 農研機構・作物研)

P-18: サツマイモ立枯病抵抗性遺伝子の同定に向けた連鎖地図の作成および QTL 解析

○相川祥胤¹・今井佑美^{1,2}・門田有希¹・岡田吉弘³・謝花治⁴・翁長彰子⁴・田淵宏朗³・小林晃³・田原誠¹ (1. 岡山大院・環境生命科学, 2. 鳥取大乾地研, 3. 九沖農研, 4. 沖縄農研)

P-19: サツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita*) 抵抗性遺伝子の同定に向けた連鎖解析

○笹井瑠美¹・岸本和樹²・門田有希²・岡田吉弘³・田淵宏朗³・小林晃³・謝花治⁴・翁長彰子⁴・磯部祥子⁵・平川英樹⁵・白澤健太⁵・田原誠² (1. 岡山大農, 2. 岡山大院・環境生命科学, 3. 九沖農研, 4. 沖縄農研, 5. かずさ DNA 研究所)

P-20: 銘柄として流通する外国産小麦の品種構成を推測する技術の開発

○民本麻梨¹・門田有希²・梅野佑太³・田原誠² (1. 岡山大農, 2. 岡山大院・環境生命科学, 3. 日本製粉株式会社)

P-21: NGS を利用した活動型レトロトランスポゾンファミリー同定と連鎖解析への応用

○蔵本晃栄¹・今井佑美^{2,3}・門田有希²・岡田吉弘⁴・田淵宏朗⁴・小林晃⁴・謝花治⁵・翁長彰子⁵・田原誠² (1. 岡山大農, 2. 岡山大院・環境生命科学, 3. 鳥取大乾地研, 4. 九沖農研, 5. 沖縄農研)

P-22: コムギ育種系統「超極早生」における出穂期関連遺伝子の RNA-seq 解析

○増田春花¹・山下洋士¹・西田英隆¹・水野信之²・新田みゆき²・藤田雅也³・那須田周平²・加藤謙司¹ (1. 岡山大院環境生命, 2. 京都大院農, 3. 農研機構・作物研)

P-23: *LUX/PCL1* genotype strongly associates with heading time in a wheat RIL population derived from “Chogokuwase” and “Kinuiroha”

○K.M.N. Haque¹, H. Yamashita¹, H. Masuda¹, M. Takeguchi¹, H. Nishida¹, N. Mizuno², M. Nitta², M. Fujita³, S. Nasuda², K. Kato¹ (1. Grad. Sch. Environ. Life Sci., Okayama U., 2. Grad. Sch. Agr., Kyoto U., 3. NARO/NICS)

P-24: コムギにおける春播性遺伝子 *Vrn-D4* の起源の解明を目指して

○原田英樹¹・西田英隆¹・加藤謙司¹ (1. 岡山大院環

境生命)

P-25: オオムギの 2H 染色体上に見出された Morex 由来早生 QTL のマッピング

○田部涼太¹・小堀夏寿美²・西田英隆¹・青木恵美子³・加藤謙司¹ (1. 岡山大院環境生命, 2. 岡山大農, 3. 農研機構・作物研)

P-26: オオムギの 2H 染色体上に見出された Morex 由来早生 QTL のマッピング (F4 集団における解析)

○小堀夏寿美¹・田部涼太²・西田英隆²・青木恵美子³・加藤謙司² (1. 岡山大農, 2. 岡山大院環境生命, 3. 農研機構・作物研)

P-27: オオムギの光受容体遺伝子 *HvPhyC* が概日時計遺伝子 *Ppd-H1*, *HvGI*, 及び *HvPRR73* の発現パターンに及ぼす影響

○藤見綾夏¹・谷古健太¹・西田英隆²・加藤謙司² (1. 岡山大農, 2. 岡山大学環境生命)

P-28: Exploitation and Utilization of Heat Stress Tolerance Genes in Wheat Wild Species

Awad. A.E. Elbashir^{*1,3}, Yasir Serag Alnor Gorafi^{2,3}, June-Sik Kim², Hisashi Tsujimoto² (1. Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University, 2. Arid Land Research Center, Tottori University, 3. Agricultural Research Corporation, Sudan)



第 7 回中国地域育種談話会の優秀発表賞受賞者

〈四国地区〉

日本育種学会四国談話会報告

2015 年 11 月 26 日 (木)・27 日 (金) に第 80 回講演会、公開シンポジウム (作物学会四国支部と共催) が愛媛大学農学部において開催された。四国談話会参加者は 15 名、9 題の一般公演があった。

公開シンポジウム (日本作物学会四国支部・日本育種学会四国談話会 共催)

テーマ：「伊予はだか麦の未来を考える」

基調講演：(四国) ハダカ麦の未来を描く

吉岡藤治（農研機構近畿中国四国農業研究センター作物機能開発研究領域）

講演：はだか麦の遺伝学

武田真（岡山大学資源植物科学研究所）

講演：伊予はだか麦の生産現場と課題

辻田泉（愛媛県農林水産業研究所農業開発部）

講演：はだか麦の新たな用途をめざして

垣原登志子（愛媛大学農学部）

一般講演

1. シコクカッコソウの根切片由来不定芽における4倍体個体の出現。

○大橋広明・山岡真梨子・片岡圭子（愛媛大学・農学部）

2. サクラソウ (*Primula sieboldii*) の根切片由来不定芽の倍数性。

○堀内健矢・森徳和聡・片岡圭子・大橋広明（愛媛大学・農学部）

3. Effects of a lateness gene on yield and related traits in *indica* rice.

○ Rana, B.B., M. Yokota, Y. Simizu, T. Kawano, M. Murai (Faculty of Agriculture, Kochi University)

4. Effects of a lateness gene on lodging resistance and related traits in *indica* rice.

○ Rana, B.B.¹, Y. Simizu¹, H. Nakazawa¹, A. Dahal², T. Kawano¹, M. Murai¹ (1. Faculty of Agriculture, Kochi University, 2. United Graduate School of Agriculture Sciences, Ehime University)

5. オオムギの穂先の針状突起（“芒”ぼう）の長さを決める遺伝子の特定と解析。

○武田真（岡山大学・資源植物科学研究所）

6. 多角的撮影を用いたイネの葉形質の特徴抽出。

○川田亮太¹・岡本拓真¹・朽名夏磨^{2,3}・杉田（小西）左江子¹

(1. 香川大学院・農学部, 2. 東京大学院・新領域, 3. エルピクセル株式会社)

7. イネの新規難脱粒性突然変異体の解析。

○岡本拓真・杉田（小西）左江子（香川大学・農学部）

8. 弥生紫を用いたイネの新規難脱粒性突然変異体の解析。

多田菜央・○杉田左江子（香川大学・農学部）

9. イチゴ新品種“垣研 9k93号”の特性。

○玉置学・吉田豊（垣本商事㈱）

◇本会会報 第17巻4号記事の訂正

幹事会議事録の訂正（2件）

2. 審議事項（1）平成27年度日本育種学会賞について

（正）1. 辻本壽（鳥取大学乾燥地研究センター）「異種遺伝資源によるコムギ育種技術の開発と応用」

（誤）1. 辻本壽（鳥取大学）「異種遺伝資源によるコムギ育種技術の開発と応用」

（正）2. リポキシゲナーゼ欠失ビール大麦育成グループ（サッポロビール株式会社, 岡山大学, サスカチュワン大学（カナダ）, アデレード大学（オーストラリア））「リポキシゲナーゼ欠失変異を利用した高品質ビール大麦品種の育成：普及から原料調達に至る生産管理体制の国内外での確立」

（誤）2. リポキシゲナーゼ欠失オオムギ育成グループ（サッポロビール（株）, 岡山大学, サスカチュワン大学, アデレード大学）「リポキシゲナーゼ欠失変異を利用した高品質ビールオオムギ品種の育成」

日本育種学会会員異動(2015.10.21～2016.1.20)

◇普通会員入会: 藤井壮太（奈良県）, 高取由佳（佐賀県）

住所変更等

◇普通会員：津釜大侑（北海道）, 畠山勝徳（岩手県）, 佐藤洋一郎（東京都）, 藤戸聡史（三重県）

◇学生会員：富田朝美（沖縄県）